

## 税金ドロボーっているの

中津市立豊陽中学校 3年 高塚 愛心

先日見たテレビドラマで交通違反をした人が警察官に対して「税金ドロボー」と吐き捨て去るシーンを見てとても衝撃を受けました。私の母も同じ体験をしたそうです。父の仕事が国家公務員であるため看護師として働いている母は機嫌の悪い患者さんから「税金ドロボー、国のお金でご飯食べれていることに感謝しろ」と言われたそうです。母は驚きのあまり採血をする手が止まり、なぜこの人はそんな事を言うのだろうと理由を探ると、待ち時間の長さや病気による不安からくるストレスの吐け口になっているのだろうと解釈し、その言葉の衝撃を受け止めたそうです。

果たして公務員や税金によってお給料がもらえている人たちは税金ドロボーと呼ばれても仕方がないのでしょうか。それは違います。確かに公務員の給料はみなさんの税金から支払われていますが父は毎日一生懸命働いています。時々夜遅くに帰宅したり、夜中に突然登庁の呼び出しがあり朝方まで帰らない時は本当に心配です。そんな事があっても、朝にはその日の勤務のためにまた仕事に行きます。これは私の父だけではなく多くの社会で働く方々と同じだと思います。

私たちは税金のお陰で生活できています。でも、税金がどのように役立っているか、あまりにも生活に溶け込んでいるので気付いていないことも沢山あると思います。私たち小・中学生の義務教育、お年寄りの年金、医療費、災害時の復興費、など挙げるときりがない程でそれは全て税金で賄われているのです。しかし、税金を出し惜しんだり何に使うか分からないから払いたくないと納税に消極的な人もいます。もし税金の制度が無ければ個人の力で様々なライフステージを乗り越えることになるため、多額な預金と不死身の体がなければ不可能なことです。税金がなければ不公平な社会が生まれます。現在の貧富の差が少ない平等な社会があるのは税金のお陰なのです。困っている誰かの助けになれるひとつの方法は私たちにも出来る納税です。いつか我が身にも振りかかろうる難事があっても誰かの納税によって助けられる。その助け合いの心は日本人の思考の象徴です。

中学生である私たちに今できることは、義務教育を受け、しっかり勉強すること。そこから税の仕組みを正確に学ぶことで将来大人になった時、不安なく税金を納められる知識を持つことです。

一人の納税は微力ですが、国民全体で考えると国を助け、個人を助ける力を持っています。税金は無駄ではありません。税金は公務員だけが独占しているわけではありません。税金は安心・安全な生活を保持するためにあります。税金は国民の命綱なのです。

公務員も、皆さんと同じように大変な職務をこなしています。決して税金ドロボーではない。税金は至るところで役に立っていることをわかってほしい。